

いただきました。25年間の競技人生から学んだ困難への向き合い方、変化し続けることの大切さ、自分の動機を沸き立たせること、スポーツの持つ可能性について講演されました。聴くもの皆、先生の柔らかな物腰の中に強靱な精神が宿ることに気づかされたことと思います。大きな目標であっても、毎日少しずつ目標を立てていく、変化しつづけていくことの大事さはすばらしい人生のアドバイスとして参加者全員が深い感銘を受けました。

今回は熊本地震直後であり、一日目の総会に引き続き、十時忠秀先生の司会による緊急現地報告会が開かれました。まず、被災者としての宮崎久義先生(学会理事長)、飯塚病院DMAT隊長の鮎川勝彦先生、同隊の森本秀樹先生、PCAT先遣隊の頴田病院 吉田 伸先生による現地報告、そして最後に野村一俊先生(学会理事)のこれも被災者としての特別発言がありました。震度7の2回の大地震と打ち続く余震の中、病院救急医療の現場や避難所や車中泊を余儀なくされる災害現場の状況を被災者の立場から、また災害派遣医療チーム、プライマリケア災害医療支援チーム先遣隊の立場からの経験を報告いただき、災害直後の現地の困難極まる状況を満員の参加者全員が共有することが出来ました。

学術総会初日の午後、会場ロビーでは飯塚病院看護部茶道愛好会の皆さんのお点前で裏千家の薄茶の会が行われました。討論の合間のひと時をお菓子とお茶でゆっくりと楽しんでいただけたことと存じます。夕刻より福岡サンパレスホールにて懇親会を開催しました。熊本地震直後のことであり、急遽チャリティー懇親会に変更する旨を当日朝よりアナウンスしましたところ、前売り券以外に97名の参加をいただき、発起人として大変感激いたしました。懇親会では博多の食文化を楽しんでいただく他に、医師チームによる演奏会や全員参加の大合唱の企画がサプライズで生まれ、ZARDの「負けないで」を被災地へ届けと参加者全員が心一つにして歌いあげるといった感動も味わうことが出来ました。

会期中、会場内に平成28年熊本地震被災者への義援金ボックスを設置し、319,979円集まりました。チャリティーとした懇親会には311名の方にご参加いただきました。ご協力いただいた皆様へ深く御礼申し上げます。集まった義援金と芳名帳は懇親会参加費とともに熊本県「平成28年熊本地震義援金」にお送りいたします。

最後になりましたが、本学術総会の開催に際し、企

画から運営に至るまで学会役員の皆様を始めとして多くの方々にご支援、ご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。また、熊本地震直後という困難な状況乗り越えて全国より福岡市へお越しいただき、本学術総会を盛り上げていただきました参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。加えて、支部学術集会を中止するなど全面的なご支援を賜りました福岡支部の役員の皆様、開催に際して後援をしていただきました各種関連団体、展示や広告、セミナーなどに協賛いただいた各企業、そして最後にグレーのユニフォームに身を包み、一致団結して学術総会運営に尽力して頂いた「日本一のみごころ病院」を目指す当院スタッフならびに困難な諸事情乗り越えて本学術総会の企画と運営を担当していただいた皆様にも、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

次回は、2017年7月7日(金)、8日(土)の日程で仙台市での開催となります。また皆様にお会いできることを楽しみにしております。ありがとうございました。

第17回日本医療マネジメント学会学術総会会長賞を受賞して 医療法人社団エトワール会たんぽぽクリニック 池田登朗



第17回日本医療マネジメント学会
学術総会会長賞表彰式

この度は、荣誉ある第17回学術総会会長賞を受賞し、宮崎久義理事長、山根哲郎学術総会会長および関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

私どもの論文は第17回学術総会にて発表した「在宅医療・緩和ケアカンファレンス(以下、本会という)」の取組みについて発表した内容を私が代表してまとめさせていただいた論文であり、素晴らしい共著者の先生方と共に発表させていただいたこの論文で受賞できたことを大変喜ばしく思います。

多職種・多事業所連携は本当に奥が深く、そしてどの地域にも存在している課題の一つであり、しかし、地域包括ケアシステムの構築において欠かすことのできない要素の一つでもあります。本会は北多摩南部医療圏域東部のがん連携拠点病院の武蔵野赤十字病院・杏林大学医学部附属病院、武蔵野市医師会・三鷹市医師会の先生方や武蔵野市在宅介護支援センター・三鷹市地域包括支援センターの方々をはじめ、まさに多職種・多事業所の中心関係者(世話人)で構成されており、